



大阪府中央会情報連絡員報告

府内中小企業の景況

2023年
1月

- 1月のDIは、全9指標のうち5指標が上昇、主要3指標は、売上高5ポイント上昇、収益状況5ポイント上昇、業界の景況は1ポイント上昇している。
- 1月末時点では、製造業では8指標のDIが低下、また非製造業では4指標のDIが上昇している。

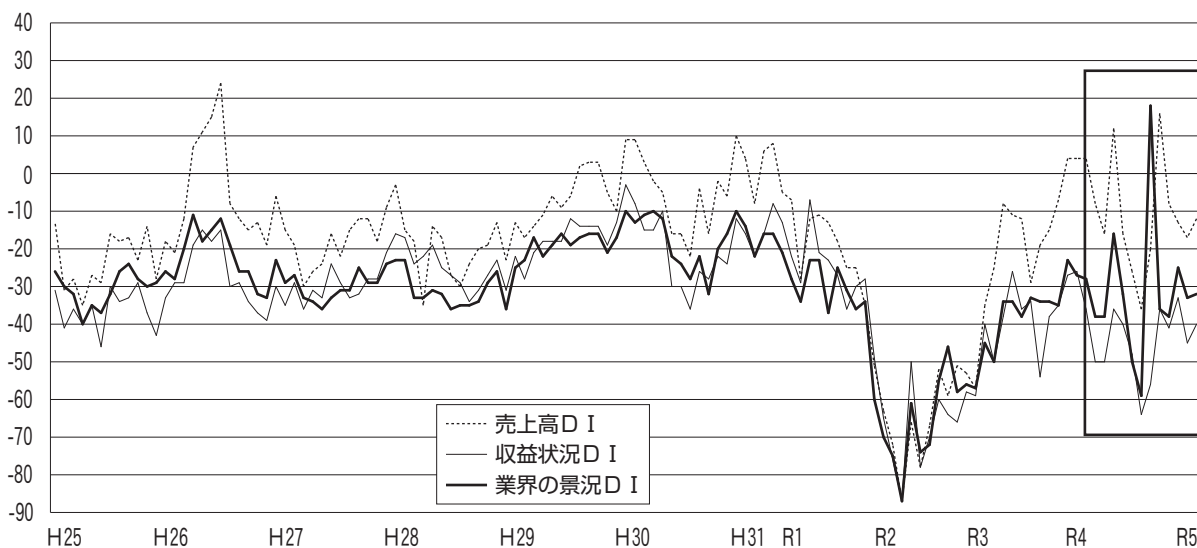
景況天気図

令和5年 1月分	全産業			製造業			非製造業			30以上 快晴
	12月	1月	前月比	12月	1月	前月比	12月	1月	前月比	
売上高	△17 	△12 	↗ 5	0 	△14 	↘ -14	△60 	△10 	↗ 50	10~29 晴れ
在庫数量	△6 	0 	↘ 6	△15 	△6 	↘ 9	50 	25 	↗ -25	9~△9 うす曇り
販売価格	28 	28 	→ 0	31 	27 	↘ -4	20 	30 	↗ 10	△10~△29 くもり
取引条件	△17 	△8 	↗ 9	△15 	△20 	↘ -5	△20 	10 	↘ -30	△30~△49 雨
収益状況	△45 	△40 	↗ 5	△38 	△46 	↘ -8	△60 	△30 	↘ -30	△50以上 大雨
資金繰り	△22 	△24 	↘ -2	△15 	△26 	↘ -11	△40 	△20 	↘ -20	
設備操業度	△15 	△14 	↗ 1	△15 	△14 	↗ 1				
雇用人員	△11 	△12 	↘ -1	△7 	△13 	↘ -6	△20 	△10 	↘ -10	
業界の景況	△33 	△32 	↗ 1	△23 	△40 	↘ -17	△60 	△20 	↗ 40	

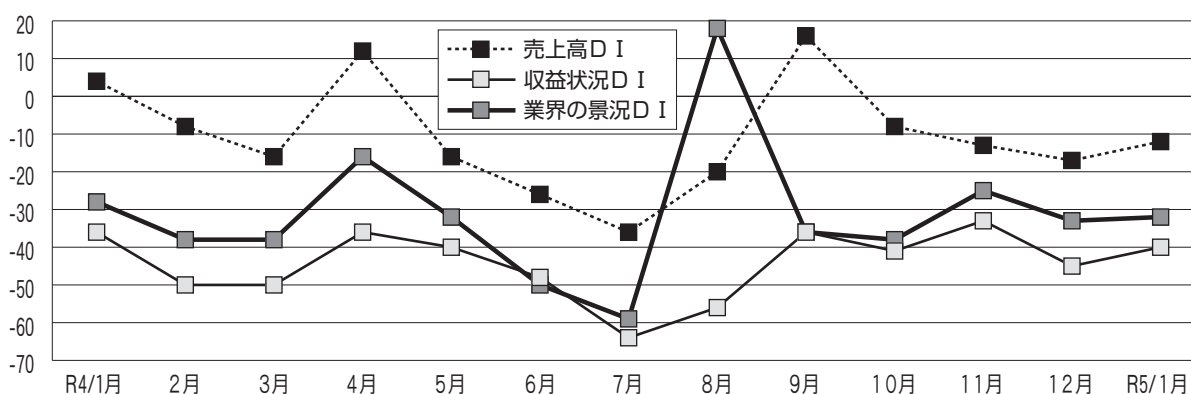
天気図の見方…各景況項目について「増加」(または「好転」)業種割合から「減少」(または「悪化」)業種割合を引いた値をもとに作成。その基準は右記のとおりです。ただし、在庫数量はプラスの場合は雨、マイナスの場合は晴れの方向に表しています。

DI (Diffusion Index: ディフュージョン・インデックス) とは、景気動向指数や景気判断指数と呼ばれており、景気動向を早期に把握するために使われる指標である。「増加・上昇・好転」といったプラス回答の比率から、「減少・低下・悪化」というマイナス回答の比率を差し引いて求める。

全産業 H25年1月～R5年1月のDIの推移



全産業 R4年1月～R5年1月のDIの推移



業種別概況 (1月分)

【製造業】



水産食料品製造業

人気魚種の価格が高騰する中、かねて問題視されてきた水産物の“買い負け”が一段と深刻化しており、買い出し人や飲食店からの注文が減少している。また、時化や寒波の影響で入荷量も激減し、業界の景況は悪化している。



綿・スフ織物製造業

為替相場の変動に伴う電気料金や原材料の高騰などを受け、価格転嫁が思うように進まず先行き不安定な状況である。



木材加工業

天候や原材料不足などの要因により、前年同月と比べて売上高が減少しており、業界の景況は悪化している。



古紙収集加工業

前月に続き新聞古紙、雑誌古紙は発行部数の減により大幅に減少、また、印刷用紙の需給不振により家庭紙向け産業古紙の発生も極端に減少し、業界全体としての景況は悪化している。


製本業

前年同月と比べ横ばい状況であるが、組合員企業は原油価格の高騰に伴う運送費などを製品単価に転嫁できず、また、機材関連業者からは値上げを要望され苦慮している。


シール印刷業

前月同様コロナウイルス感染対策の規制解除による社会経済活動の回復を背景に、食品・電気製品・化粧品・物流・医療関連等業種でラベル需要が回復、売上高は増加し、設備操業度や業界の景況は好転した。


セルロイドプラスチック製品製造業

プラスチック加工品の需要が低調なことから、前月比40%減、前年比30%減となり、業界の景況は極めて悪化している。


石鹼洗剤製造業

衛生関連品は高い水準の需要が続いており、コロナからの反動減を完全に払拭して安定的な動きとなっている。


鍛造業

生産量において5ヶ月ぶりに前年を下回り、全体として4%程度の前割れとなった。主要の産業機械・土木建設機械用と自動車用が5~10%近く減となり、収益状況や業界の景況は悪化している。


建築金物製造業

前年度同月と比べ横ばい状況であるが燃料価格、原材料費の高騰や物流コストの高止まりなどにより、業界各社の経営環境は依然として厳しい状況にある。また、金利の上昇、ウクライナ情勢の長期化や世界経済の減速のおそれ、税負担の増加が見込まれるなど、今後も景気の下振れリスクが懸念されるため、しばらくは先行き不透明な状況が続くものと予想される。


印刷製本機械製造業

この数か月、半導体を中心とした部材・部品不足が顕著である。また、入手可能な部品は品切れを懸念し大量発注するため、通常の5倍近い在庫が発生している。業界の景況は横ばい状態である。

【非製造業】

電気機器卸売業

企業間格差があるものの全体としては増収・増益基調にあり、供給不足についても徐々に欠品解消の方向に向かっている。


衣服・身の回品卸売業

円安は年末に比べてやや戻しつつあるものの、依然エネルギー関連の高騰や輸送コストの上昇による原価の高騰に苦慮しており、業界の景況は悪化している。


二輪自動車小売業

前月同様、来店客数や需要の減少により、ディーラーは比較的堅調であるが、それ以外の販売店は依然厳しい状況である。


地質調査業


前年比と比べて変化はないが、2023年度の地盤調査発注量の減少が危ぶまれている。


警備業

ウイズコロナ禍の中、社会経済活動が回復してきたことで、警備業務の受注も徐々に増えており、売上げは昨年同月より増加に転じた。依然、慢性的な警備員不足が問題である。


建設業

顧客からの受注依頼が全くなく、売上高、取引条件、収益状況、資金繰り共に悪化、業界の景況も悪化している。


タイル工事業

仕入価格、ガソリン等の値上げについては少しずつ販売価格へ転嫁しているが、売上は前年比5%程度減少しており、業界の景況としては悪化している。


貨物運送業

問合せ件数、受注件数とも僅かながら増加しているが、燃料価格、資器材の価格高騰により収益は減少、価格競争が激化している。